

# 倉敷安耶・西村涼

KURASHIKI Aya · NISHIMURA Ryo

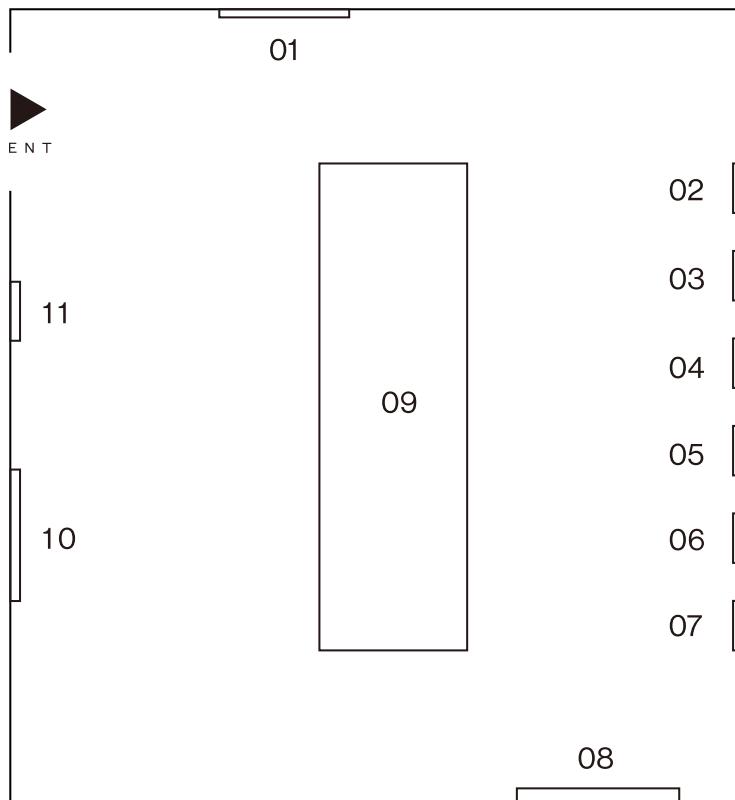
ニューニューション #5  
New Mutation

2023年6月24日(土) - 7月30日(日)  
京都芸術センター ギャラリー 北・南

10:00 - 20:00 | 入場無料 | 会期中無休  
※7月14日(金)、15日(土)、16日(日)は短縮開館のため17:00まで

滞在制作記録はこちらをクリック

ギャラリー南会場図



01 | 西村涼 | 《脈》 | 2020年

H1100×W1600×D50mm | 版画インク, 水彩紙

02 | 西村涼 | 《ポリフォニー-1》 | 2023年

H460×W610×D100mm | 石膏, 版画インク, サイザル

03 | 西村涼 | 《ポリフォニー-2》 | 2023年

H460×W610×D100mm | 石膏, 版画インク, サイザル

04 | 西村涼 | 《ポリフォニー-3》 | 2023年

H460×W610×D100mm | 石膏, 版画インク, サイザル

05 | 西村涼 | 《ポリフォニー-4》 | 2023年

H460×W610×D100mm | 石膏, 版画インク, サイザル

06 | 西村涼 | 《生命のさざめき1》 | 2023年

H460×W610×D100mm | 石膏, 版画インク, サイザル

07 | 西村涼 | 《生命のさざめき2》 | 2023年

H460×W610×D100mm | 石膏, 版画インク, サイザル

08 | 西村涼 | 《生命の銀河》 | 2023年

H1000×W2000×D100mm | 石膏, 版画インク, 木枠, シュロ皮, サイザル

09 | 西村涼 | 《はこぶね》 | 2023年

H100×W6000×D1820mm | 石膏, 版画インク, 木枠, シュロ皮, サイザル

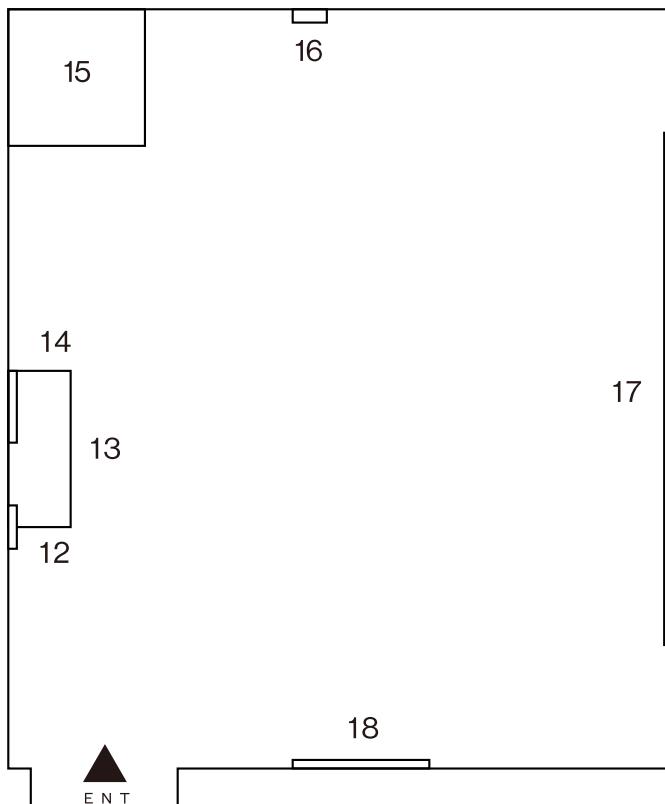
10 | 倉敷安耶 | 《Transition #九想図》 | 2022年

H1940×W1620×D50mm

木枠, ウール生地, アクリルメディウム転写, アクリル絵具, 刺繍, 糸

11 | 倉敷安耶 | 《ドローイング #九相図》 | 2023年

サイズ可変 | 刺繡枠, 刺繡チュール生地, アクリルメディウム転写



12 | 西村涼 | 《悠久のカプセル》 | 2023年

H370×W508×D30mm | 版画インク, 水彩紙

13 | 倉敷安耶 | 《ドローイング #境界をなぞる》 | 2023年

サイズ可変 | レモン, 炭化したレモン, 酵素レモンシロップ, 骨壺, 燭台, 蜡燭, 鍋, 水差し, 転写したケーキスタンド, アクリルケース, 蜂蜜, 石膏の頭蓋骨, 雪花石膏の油壺, アロマオイル, 音声, テーブルクロス, 京都芸術センター応接室のテーブル

14 | 倉敷安耶 | 《グレーヴ》 | 2021年

H594×W841mm | ラムダプリント

15 | 倉敷安耶 | 《わたしたちは家族》 | 2022年

サイズ可変 | テーブル, 椅子, テーブルクロス, 皿, グラス, カラフェ, ポトル, ボウル, カトラリー, 三面鏡, 燭台, 蜡燭

16 | 倉敷安耶 | 《グレーヴ》 | 2023年

H410×W410×D130mm | 木製パネル, ウール生地, アクリルメディウム転写

17 | 倉敷安耶 | 《九相図》 | 2023年

H3000×W6000×D50mm |

木枠, ウール生地, 綿生地, 織物, アクリルメディウム転写, 油彩, 刺繍, 糸

18 | 西村涼 | 《“うち”へ還る2》 | 2022年

H1100×W1600×D50mm | 版画インク, 水彩紙

### [滞在制作について]

本展の開催に向けて、5月20日(土)より5週間、倉敷と西村がそれぞれギャラリー北・南に実際に滞在して制作を行いました。展示作品のうち2023年に制作されたものはすべて、今回の滞在制作によるものです。滞在のようすはエントランス前のディスプレイにて上映しているほか、表紙の二次元コードからもご覧いただけます。また、南館1Fの図書室には滞在制作期間中に行われた西村によるワークショップで参加者が制作した作品と、倉敷と西村による選書が置かれています。あわせてご覧ください。

# 倉敷安耶 KURASHIKI Aya

1993年兵庫県生まれ。2018年京都造形芸術大学(現:京都芸術大学)大学院芸術研究科油画専攻修了。2020年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了。現在、東京を拠点に活動中。主な個展に「そこに詩はない。それは詩ではない。」(myheirloom/東京/2021)、「浅はかなり、リアルの中でしぜんにかえる」(和田画廊/東京/2022)、主なグループ展に「((((,))(駒込倉庫/東京/2022)、「Idemitsu Art Award(旧シェル賞)アーティスト・セレクション2022」(国立新美術館/東京/2022)など。

—

罪の女は食事の席についたイエスの足に接吻して香油を塗った(あるいは頭に香油を垂らした)。これらは祝福と喪葬を暗示する。復活を遂げたイエスは彼女からの接触を制止した。「私に触れるな」とは、身体という明白な現前に触れずに、現存という永遠に触れること。永遠は墓を空虚にする。その後、彼女は迫害され、その余生を隠者として洞窟の中の教会にて過ごした。

九相図は死体の不浄を論じるだけでなく、無常観を表出する。観想の主体は全て男性で、女性の死体は一方的な眼差しの対象とされているポルノ的絵画でもある。中世には、九相図に 小野小町伝説が合流し伝承された。美貌を誇った小野小町は零落し、京都の寺院へ辿り着き、野ざらしの髑髏になったと伝えられる。

宗教は共同体の保全の為に存在しており、穢れとは体系的秩序の為に包含してはならないものである。中でも身体的快楽、特に食と性については一層禁忌の対象として見なされてきた。一方で境界の内に収まらない異例なもの、あるいは曖昧なものとの接触は、自己と他者との属性や相互関係について教えてくれる。

食物を体の中に取り込むことは生物学的行為であると同時に、文化的実践の所産であり、他者の身体との事実上の融合でもある。食生活習慣は肉体を統制する。食卓とは最小単位の一時的な共同体だ。

料理の構造的分類の一つである発酵と腐敗の違いとは、微生物により変化した有機物が人間にとて有害であるかどうか。つまりは人間主体の眼差しである。

倉敷安耶 (くらしき・あーや)

# 西村涼 NISHIMURA Ryo

1993年京都府生まれ。2016年京都精華大学芸術学部メディア造形学科版画コース卒業。2018年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻版画修了。現在、京都を拠点に活動中。主な個展に「Elements」(PETER AUGUSTUS/ダラス/2022)、「わだちをなぞる」(アートゾーン神楽岡/京都/2022)、主なグループ展に「ON PAPER」(TAKU SOMETANI GALLERY/東京/2023)、「第3回PATinKyoto京都版画トリエンナーレ2022」(京都市京セラ美術館/京都/2022)など。

—

川の流れや生い茂る草むら、四季の移り変わりなど、私達の日常はとりとめのないものたちに囲まれ成り立っている。それらは、私の生きるという物語の欠片であると同時に、他者の物語の欠片でもある。更には、私達が生まれる前から積み重ねられてきた壮大な生の物語とも言える。

私はそんな欠片たちをプラスチック版やスケッチを通して線でトレースしてきた。それらの線は、本来形を持たない生命の移ろい、日々経過する時間を、かつてそこにあった流れの軌跡に置き換え、自身のイメージとして留める事もある。

今回京都芸術センターにて滞在制作をするにあたって、この場所でこれまで流れてきた膨大な時間を意識せざるをえなかった。それと同時に、これからもゆっくり進んでいくであろう変化や移ろうものたち、人の一生では体感しきれない循環性のようなものを、肌を通して感じる機会が多くかった。

その中で私は木や石でできた床が特に気になった。そこでは汚れの蓄積、浸透、気温や湿度の影響によって目で捉えることができない微かな変化が起こっている。

そこで私は敷地内を散策し、変化の痕跡を感じられた場所を6箇所選定し、プラスチック版を通してそれらの痕跡を写し彫った。そしてその6点を繋ぎ合わせることで、膨大な時間の流れを捉えようと試みた。

絶えず流れる水面も、大木の成長と朽ちる様も、雨が降りそそぎ大地に染み込む様も、私達が体感する時間の経過とは遠からずも近からずの距離感で、これからも日々刻々と流れていくのだろう。

西村涼 (にしむら・りょう)

アーティストたちの制作手法に着目し、その独自の表現を探ることを目的として2018年より始まった展覧会シリーズ企画「ニューミューテーション」。第5弾となる本展では「転写」技法を扱うアーティスト、倉敷安耶と西村涼を紹介します。ただ一括りに「転写」と言っても、2人が用いる技法は全く異なります。

倉敷はこれまで「メディウム転写」や「シンナー転写」を用いて作品を制作してきました。紙に印刷したイメージを、アクリル樹脂系のメディウムやシンナー溶剤によって支持体へと写し取る技法です。彼女は絵画作品などを制作する際の下絵のために用いられるこれらの手法そのものに着目し、使用するメディウムや支持体となる布地や鏡といった素材のスタディを繰り返しながら、独自の表現を探求してきました。紙に印刷されていたインクだけが残り、布のテンションによって引き裂かれながら定着することで生まれる作品には、コラージュされた社会的な文脈や私的な物語が、複雑なテクスチャの中に浮かび上がります。

一方で西村は、針で金属版やプラスチック版を直接彫る「ドライポイント」という版画技法や、凹凸のあるものの上に紙を置き、鉛筆やパステルなどの描画材で擦るように描く「フロッタージュ」という技法を基に、彫られた凹凸が生み出す有機的な表情に着目し作品を制作してきました。彼はこれらの洗練された版画技法に加え、紙に刷るのではなく、版にインクを詰めてから木枠で囲い、石膏を流し固めて転写する「石膏刷り」の技法を取り入れることで、プレス機のサイズに規定されない版画の可能性も探っています。インクと石膏が溶け合いながら固まり生まれる作品には、観測された流動的な自然現象や、幾重にも残された痕跡が、独特のマチエールの中にあらわれます。

それぞれの技法は違えども、そこには幾つかの共通点があります。1、転写に至る過程が複層的で時間を要すること。2、転写の際に作品がアーティストの手から完全に離れること。3、そのため精緻な複写ではなく、平面上には傷、擦れ、裂け、割れ、染みといった影響が無数に混在すること。4、それらの影響を完全に排除、或いは最初から回避しようとするとではなく、引き受けたり、又は抗ったりしながら、独自の表現手法への昇華を試みていること。等々。一般的に転写というと、イメージを綺麗に写し取る正確な複製の技法として捉えられます。しかし、それと真逆の特性を持ち、作品を通して視覚的なイメージにとどまらないものを扱う2人の「転写」はむしろ、多義的な意味を込めて「うつし」の手法と言えるかもしれません。

本企画では、京都芸術センターの展示空間内における滞在制作と展示を通して、アーティストがそれぞれ独自に培ってきたこのような「うつし」の手法を取り上げ、その表現を可能にしているもの、それによって表現が可能となるものへと目を向けています。

京都芸術センター アートコーディネーター  
中谷圭佑(なかや・けいすけ)

[出展] 倉敷安耶 | 西村涼 [企画] 中谷圭佑(京都芸術センター)  
[宣伝美術] 岡田将充(OMD) [翻訳] 雁木聰  
[設営] 十河陽平 | 小川智彦 | 鷲恒太郎 | 村上美樹 | 横山文昭 | 米村優人  
[主催] 京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)  
[助成] 公益財団法人野村財団 | 公益財団法人クマ財団  
[協力] シェアハウス まほろ | 青木駿歩 | 飯野哲心 | 今宿未悠 | 上田優衣 | 萩原樹 | 上浦慎一郎 | 清原紗路 | 河野愛子  
永井雅也 | 萩原樹 | 花形楨 | 山本英未 | 伊藤希美花 | 遠藤純子 | 奥田純子 | 奥村礼子 | 川那辺育美 | 児玉幸枝  
澤村稔子 | 竹島一好 | 立田万気子 | 田中裕美 | 谷田輝恵 | 中居幸枝 | 平野徹 | 福岡直美 | 安田弥生

# 滞在制作記録

本展覧会の開催に向けて、5月20日(土)より出展作家の倉敷安耶と西村涼がそれぞれギャラリー北・南に実際に滞在して作品の制作をおこないました。本企画では、いつも展覧会の看視などをお願いしている京都芸術センターのボランティア・スタッフの皆さんと一緒に、5週間にわたる滞在制作の様子を記録してきました。日付の横にある画像をクリックすると、YouTubeのリンクからボランティアの皆さんのが撮影した写真と、録音した日報をご視聴いただけます。



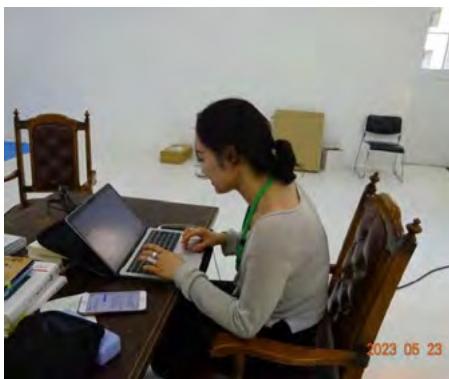
● 5月20日(土)



● 5月21日(日)



● 5月22日(月)



● 5月23日(火)



● 5月24日(水)



● 5月25日(木)



● 5月26日(金)



● 5月27日(土)



● 5月28日(日)



● 5月29日(月)



● 5月30日(火)



● 5月31日(水)



● 6月1日(木)



● 6月2日(金)



● 6月3日(土)



● 6月4日(日)



● 6月5日(月)



● 6月6日(火)



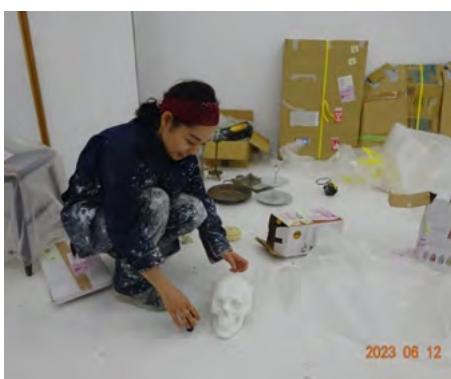
● 6月7日(水)



● 6月9日(金)



● 6月10日(土)



● 6月12日(月)



● 6月13日(火)



● 6月14日(水)



● 6月15日(木)



● 6月16日(金)



● 6月17日(土)



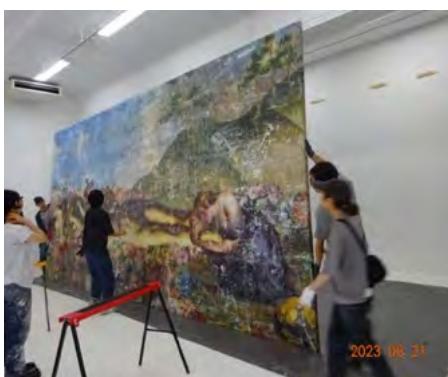
● 6月18日(日)



● 6月19日(月)



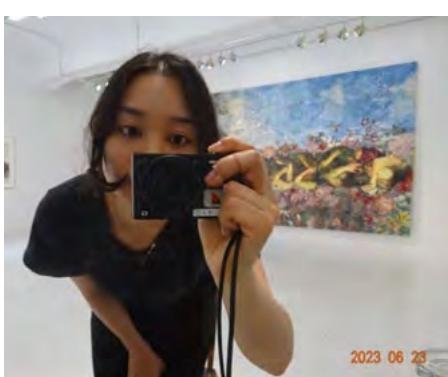
● 6月20日(火)



● 6月21日(水)



● 6月22日(木)



● 6月23日(金)